

2026年6月23日

**「現場のムダを利益に変える、リテール DX。」を提供
株式会社スコープ、「リテールテック大阪 2026」に出展
～食品ロス削減・電子棚札・AI 売場診断など、最新ソリューションを一挙展示～**

株式会社スコープ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:横山 繁)は、2026年7月2日(木)・3日(金) インテックス大阪で開催される日経メッセ大阪 街づくり・店づくり総合展「リテールテック大阪 2026」に出展いたします。

創業以来37年以上にわたり小売現場と向き合ってきたスコープは、現在「The Activator Company.」を掲げ、単なる販促支援にとどまらず、システム構築や生産性向上支援まで領域を拡大しています。本展示会では、「現場のムダを利益に変える、リテールDX。」をテーマに、人手不足や食品ロスといったリテール業界の喫緊の課題を解決し、「売れる売場」を実現するための3つの主要ソリューションを展示・実演いたします。



▲ 出展ブースイメージ(インテックス大阪 5号館 Aゾーン 小間番号:R31)

■出展コンセプト：「現場のムダを利益に変える、リテール DX。」で現場の課題を解決

生産年齢人口の減少による人手不足、食品ロス削減への社会的要請など、小売現場は日々「リソースが足りない」「作業が間に合わない」という課題に直面しています。スコープは、これらの課題を、削減すべきムダ(廃棄ロス、作業工数、非効率な管理)を徹底的に減らしながら、売れる売場づくりを実現することで利益を増やすための具体的な DX ソリューションを提案します。

■主な展示ソリューション

1. 作業も食品ロスもまとめて削減。賞味期限管理ソリューション『Expiry Management』

賞味期限管理を自動化し、作業時間と廃棄ロスの削減を同時に実現するソリューションです。全品チェックをやめて期限確認をスマートにするだけでなく、売り切る判断を支援し、廃棄ロスと値引きを最小化します。1SKU 単位でのムダのない期限管理を実現します。

2. 売価変更と棚管理の手間とミスをなくす。次世代型電子棚札システム『Edge Sense』

+AI カメラ『Cap tana』

電池パック 1 個で棚の電子棚札に給電し、Bluetooth 通信で売場をリアルタイムにつなぐ次世代型の電子棚札(ESL)システムです。AI カメラ『Cap tana』が欠品・棚割ズレを自動検知し、電子棚札の LED が光ってスタッフを対象棚へ即座に誘導することで、売場の実行精度を飛躍的に高めます。さらに、賞味期限管理ソリューション『Expiry Management』と連携することで、売場業務の最適化と”売り切る力”の強化を実現。相乗効果による、次のステージの店舗 DX をご提案します。

3. 売り場の質を底上げする。AI 売場診断サービス『SCOPY(スコーピー)』

AI が店舗の売り場写真から分析し、売上向上に繋がる具体的な改善点を診断・提案するサービスです。販促ツールの最適化、効果的な陳列方法、売り場演出などを通じて、売場のポテンシャルを最大限に引き出します。「担当者の経験や勘に頼った売り場作りから脱却したい」「店舗ごとのバラつきをなくしたい」といった課題に応えます。

■「リテールテック大阪 2026」開催概要

- 会期:2026年7月2日(木)・3日(金) 10:00~16:30
- 会場:インテックス大阪
- 出展ブース:株式会社スコープ ブース(5号館 Aゾーン 小間番号:RT31)
- 公式サイト: <https://messe.nikkei.co.jp/rs/>

■株式会社スコープについて

「The Activator Company.」として、世の中のあらゆるモノ・コト・ヒトを活性化し、動かしていくことを使命とするマーケティング・カンパニー。37年以上の小売現場での経験で培った「売場を一番理解している」という強みを活かし、戦略立案からデジタルソリューションの導入・運用までを一貫してサポートしています。

【株式会社スコープ】

代表取締役社長:横山 繁

設立:1989年4月1日

所在地:東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム28階

事業内容:総合企画事業

企業サイト: <https://www.scope-inc.co.jp/>

問合せ先: koho@scope-inc.co.jp